

巻頭言



内閣府認証 NPO法人
 ジャパン メディカル ケア アソシエーション
 (JMCA)

理事長
 西川 雅夫

人と自然と社会の
 健康を目指して

令和7年は、いろいろな意味で節目の年です。

昭和100年、戦後80年、阪神タイガースの初めての日本一と御巢鷹山事故から40年、阪神・淡路大震災から30年、そして大阪・関西万博の年です。

震災に限らず、台風や大雨に伴う土砂災害が頻繁に起こっています。地球の温暖化の問題だけでなく、山や森林の力が問題視されています。国連で調印された30 by 30 もありますが、森林環境税や、森林環境譲与税の施行もあり、各自治体では「みどり」に取り掛かる部署があると聞き及んでいます。

SDGs は Sustainable (sustain = 持続 + able = 可能) Development (発展・開発) Goals (目標) の略です。現在の内容は2030年が達成期限とされていますが、その後の目標は2027年討議されることになっています。方向性として国連事務局が示している柱が「Well-being・生命と地球の尊重・格差の縮小」とのことです。

日本語訳でSDGsをWell-beingを福祉と訳してしまったので解り難くなっているようですがWHO憲章の和訳を託された高田勗先生は、Well-beingを良好な状態(前後の文章を含めると、「身体的・精神的・社会的に良好な状態の継続」とされていました。

あらゆる年齢層の人のWell-being(心身の健康や幸福)の促進を、人と自然と社会の健康の保持・増進と捉え、幸福長寿の達成に向け、本年も取り組み、邁進していく想いです。

森林率の世界1位がフィンランドで73・9%、日本が第2位で68・2%とされているようです。私は裏千家の千玄室大宗匠が会長をされている関西日本・フィンランド協会の副会長をさせていただいていますが、森林率1位と2位の国の友好に携わっているのは名誉なことです。

木の棒を投げて木のピンを倒し得点を競うモルツクというスポーツはフィンランドで開発されたゲームで、我が国でも100万人を越える愛好者がいるとのことです。CO2削減にも寄与しているゲームと言えそうです。

日本の都道府県別の森林率では、高知県83・6%、岐阜県81・1%、長野県78・7%がベスト3で、千葉県28・8%、大阪府29・8%、茨城県31・0%がワースト3とのこと。

人と自然と社会の健康の保持・増進を目指すなか、人については幸福長寿の達成を掲げています。自然の健康・森林の健康は、人が手を入れることによって保たれますので、その事業に取り組みれば、幸甚です。



CONTENTS

- 2 巻頭言
- 3 2025年は大阪の時代の幕開け
 (公財) 大阪観光局 理事長 溝畑 宏氏
- 6 万博の先に目指す「NATUREVERSE」の世界
 (株) パナソニックグループ代表取締役グループ代表 南部 靖之氏
- 8 大阪・関西万博と兵庫県
- 10 (公社) 2025年 日本国際博覧会協会 堺井啓公氏
 × JMCA 西川雅夫 理事長 新春インタビュー
- 14 「森林の生物多様性を高めるための
 林業経営の指針」の策定(林野庁)
- 16 公民連携によるグリーンインフラの推進(さいたま市)
- 18 Health Tourism 敦賀市
- 20 サラヤ(株) / 関西学院SDGs ユースアイデア2024
- 22 シモダフランジ(株) / 関西学院SDGs ユースアイデア2024

